

# 2022年度事業完了報告

## 2022年ユニタール広島青少年大使育成事業

ユニタール持続可能な繁栄局

2023年3月



## 謝辞

国連訓練調査研究所（ユニタール）は、本事業をご支援くださった次の団体に厚く御礼申し上げます。

- 広島県
- 国際ソロプチミスト広島一中央
- 一般社団法人国連ユニタール協会

加えて、事業を支援して下さった以下の団体に御礼申し上げます(順不同)。

- 株式会社良品計画
- 慶応義塾大学特任助教高木超氏（Cosmo Lab）
- 株式会社広島ドラゴンフライズ
- 三菱地所レジデンス株式会社



第1日目の様子(前半)

## 団体概要

### 国連訓練調査研究所（ユニタール）

スイスのジュネーブに本部を置くユニタールは1963年に国際連合の独立組織として設立されました。国連システムにおける研修組織として、革新的な学習方法の提供を通じて個人、団体や組織を支援し、より良い将来を形作るために必要な国際的な意思決定や国レベルでの活動の向上を目指します。毎年500以上実施する研修には、世界各国から13万3000人以上の研修生が参加しています。外交官、政府やNGOの代表、民間セクターや地方自治体職員など幅広い分野の人々に学ぶ機会を提供しています。



第1日目の様子(後半)

### ユニタール持続可能な繁栄局

ユニタールは8つの局があり、その一つである持続可能な繁栄局は貿易・金融プログラムチームと広島事務所で構成されています。私たちは最先端のトレーニングと、インクルーシブで持続可能な経済成長を促進する学びの機会を提供しています。

持続可能な繁栄局は持続可能な開発目標（SDGs）を支援する6つのテーマを柱としています。

- 汚職防止・犯罪対応
- 起業及びプライベートセクター開発
- 貿易と金融
- 最先端テクノロジー
- 広島と平和
- リーダーシップとエンパワーメント

私たちは、適切で的を得た研修を設計してきた幅広い経験を活かし、私たちが研修を提供する地域や個人のニーズにあった手法やテクノロジーを組み合わせます。私たちは女性、若者、紛争状態にいる人々など、最も弱い立場にある人々に特別な注意を払いながら、後発開発国、小島嶼開発途上国、脆弱な国家からの研修生とともに、活動しています。



国連訓練調査研究所  
持続可能な繁栄局・広島事務所  
局長兼所長

隈元美穂子



目次

2022年度事業完了報告..... 1

2022年ユニタール広島青少年大使育成事業 ..... 1

    団体概要..... 3

    要旨..... 6

    研修の要旨..... 7

    青少年大使の対象者..... 8

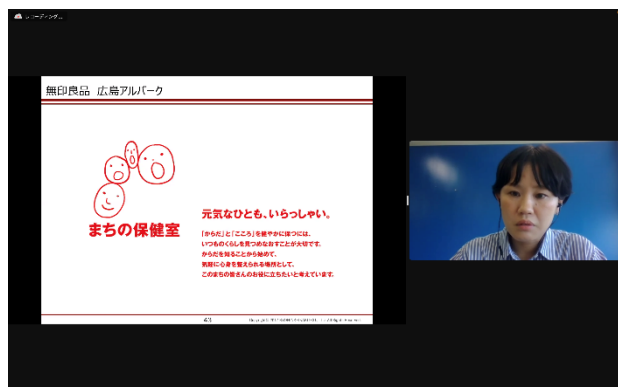
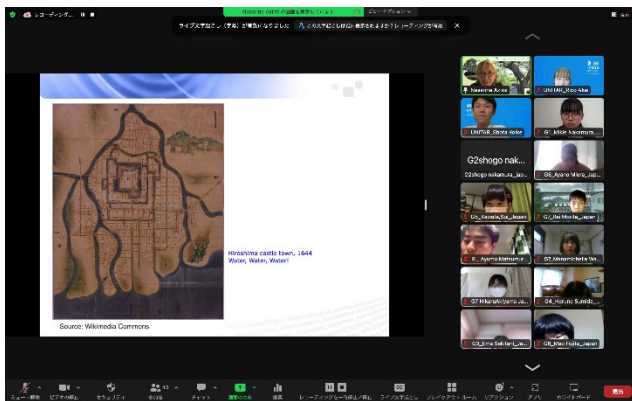
    ジェンダー・バランス ..... 8

    学校分布..... 9

    結果..... 12

    考察..... 15

    コアバリュー（内部資料、外部の時は外してください。） ..... 16



第2日目の様子

## 要旨

### はじめに

国連ユニタール広島青少年大使プログラムは2010年に開始され、現在の国際社会における課題や課題に対する国連の取り組みなどに対する高校生たちの理解を深めるだけでなく、彼らが将来国際舞台において活躍するために必要とされるスキルを身に付けることを目的としています。ユニタールではこの青少年大使プログラムを地域密着型の取り組みの中でも中心的な事業の一つとして位置付けています。2010年から2021年の間、118人の広島県内の高校生が参加しています。

2022年には県内26校から48名の中高校生が参加しました。新型コロナウイルス感染症対策を万全にとったうえで、対面とオンラインのハイブリット形式で実施しました。

### プログラムの目的

ユニタール広島青少年大使事業は、生徒が国際的な問題や持続可能な開発目標(SDGs)に対する理解を深め、自分たち自身でそういった問題に対応するプロジェクトを創り、運用していくスキルを身に着けるとともに、国際的な専門家やほかの若くして活動を実施している人と国際的につながっていくことを目的としています。

青少年大使たちが、将来への機会を広げ、国際的な場でより良い世界を作る担い手となれるようにすることが、この事業のゴールになります。

2022年は「自分たちが暮らす街を、SDGsのレンズを通して見つめることを通して、理想の街・自分にできる行動について考える」をテーマに、実際に広島を歩き、社会を変えるためにできる身近な活動を考案するために必要な能力の開発に重点を置きました。

### 統計

2022年、プログラムは対面とオンラインのハイブリット形式で提供されました。広島県26校から48名が参加し、19%が男性、80%が女性、1%がその他でした。

### プログラムの構成と手法

2か月間のプログラムの中で、研修生たちはオンデマンドのEラーニングコースと、SDGsに関する活動を実施している企業や行政・国連機関・専門家の講義やワークショップ、グループワーク、国際交流、最終プレゼンテーションで構成された、2回の対面研修と1回のオンライン研修を組み合わせた研修を受けました。研修生たちは、9つのグループに分かれ、街歩き・マップ作り・理想の街プラン作成をグループで実施し、最終プレゼンテーションで発表しました。

### 研修生からの評価

100%の研修生が研修終了後、プログラムで学んだ内容を今後活用するとアンケートで回答しました。91%の研修生がチームで問題を解決する力が向上したと回答し、87%の研修生が自分の考えを発信する力が高くなったと回答しました。

### 考察

包括的な学びの機会がSDGsに対する学びを促進させることができました。研修では、基礎的なSDGsの知識の習得はEdAppで行い、SDGsの実践者に講義で話を聞く、という形をとりました。事前学習（EdApp）でSDGsについて学べたことが、その後の学習の基礎になったようです。また、研修中色々な人と出会い、様々な意見を聞いたことに対して、本研修の利点だと感じる生徒が多くいました。講義についても、普段の学校で聞くことがない企業や行政の視点を知ることができて、学びになったという参加者が多くいました。グループワークについては、赤の他人だった人と一つのアクションプランを作り上げることに達成感を感じたという声がありました。また、グループワークを通して、メンバー同士での交流が深まったとの声がありました。また、本プログラム終了後も、お互いに関わっていききたいという声が多くありました。

### 研修の要旨

#### プログラムの概要

かつてない、グローバリゼーションの流れに伴い、世界は日に日に複雑となっています。気候変動、金融危機、そしてパンデミックなどの様々な課題に、今まで人類が経験してこなかったスケールで直面しています。

2018年の国際青少年デーで国連事務総長は、若者が持つ力がいかに重要であることを強調しており、若者が持つ可能性をまさに今取り入れていくことを重視すると述べました。

若者は、SDGsを、地域社会や自分の国の目標へと落とし込んでいく重要な存在です。国連ユース・ストラテジーでは、国連の役割として、若者の社会へのエンゲージメント、参加、若者としての主張の場を増やし、平和で持続可能な世界を推進するために彼らの意見を広めていくことを挙げています。

新型コロナウイルス感染症の蔓延という、新しい世界課題のなか、社会は生活やビジネスモデル、コミュニケーション手法等を変革することが求められています。このような新しい課題に対応するために、社会活動をしていく若者たちは、自分たちの能力を強化し、より自分たちの意見を発信し、世界的な若者の動きを増やしていく必要があります。

青少年大使プログラムは2010年にユニタール広島事務所が開始しました。プログラムは広島の若者たちが、国際的な問題に対する洞察力を培い、国際的なコミュニティに対して積極的に関与していく機会を提供しています。過去10年の中で、プログラムの内容は社会の背景や各年におけるニーズに対応し、変化していきました。

2022年の研修については、新型コロナウイルス感染症対策を十分にとったうえで、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催されました。

今年度は、「自分たちが暮らす街を、SDGsのレンズを通して見つめることを通して、理想の街・自分にできる行動について考える」をテーマに、実際に広島を歩き、自分たちの選んだテーマに沿って「理想の街」プランを作ることを研修の最終目標に設定しました。

民間企業・行政・国連機関という多様なセクターによる講義や専門家によるワークショップを提供したほか、グループワークでは、街歩き・マップ作り・理想の街プランと順序だててワークを実施していきました。また、東南アジアの大学生等との英語によるオンライン交流会も実施しました。

### 青少年大使の対象者

本研修は、2010年に開始して以降広島県の高校生を対象に実施してきました。

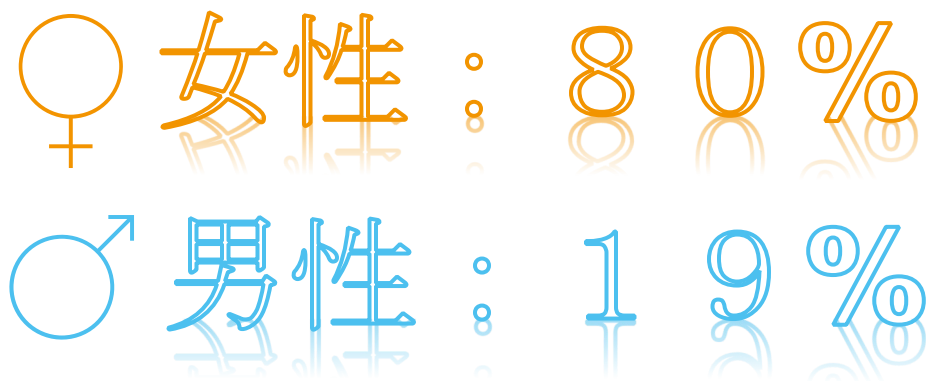
2010年～2016年においては、広島県の高校生が平和に向けた発信をすることに重点を置いており、毎年2名の高校生を選出し、大使館や外務省への表敬訪問等を実施していました。

2017年以降は、より地球市民としての能力を多くの広島県の高校生が培っていくことに重点を置き、毎年20名程度の高校生に対して、ユニタールの知見やネットワークを生かした研修を提供するようになりました。

#### 2022年の研修生の数・ジェンダーバランス・住まい

2022年の研修では、前年度から大幅に募集人数を増やし、中学校3年生も募集対象に加えました。26校48名の広島県の中高校生が参加し、48名の中で9名（19%）が男性、38名（80%）が女性、1名（1%）がその他でした。すべての生徒が研修を修了しました。

#### ジェンダー・バランス





## 学校分布

- ✓ AICJ中学校
- ✓ 盈進中学校
- ✓ 盈進高等学校
- ✓ 英数学館高等学校
- ✓ 近畿大学附属広島高等学校福山校
- ✓ 呉工業高等専門学校
- ✓ 山陽女学園高等部
- ✓ 崇徳高等学校
- ✓ 武田高等学校
- ✓ なぎさ高等学校
- ✓ ノートルダム清心中高等学校
- ✓ 広島学院中学校
- ✓ 広島女学院高等学校
- ✓ 広島県立安芸府中高等学校
- ✓ 広島県立尾道東高等学校
- ✓ 広島県立賀茂高等学校
- ✓ 広島県立世羅高等学校
- ✓ 広島県立海田高等学校
- ✓ 広島県立祇園北高等学校
- ✓ 広島県立広島高等学校
- ✓ 広島県立広島叡智学園高等学校
- ✓ 広島県立呉三津田高等学校
- ✓ 広島県立広島国泰寺高校
- ✓ 広島市立広島中等教育学校
- ✓ 広島市立舟入高等学校
- ✓ 広島修道大学ひろしま協創高校

計26校

### 研修の目的

ユニタール広島青少年大使事業は、生徒が国際的な問題や持続可能な開発目標(SDGs)に対する理解を深め、自分たち自身でそういった問題に対応するプロジェクトを創り、運用していくスキルを身に着けるとともに、国際的な専門家やほかの若くして活動を実施している人と国際的につながっていくことを目的としています。

青少年大使たちが、将来への機会を広げ、国際的な場でより良い世界を作る担い手となれるようにすることが、この事業のゴールになります。

それぞれの青少年大使は、4つのグループに分かれ、それぞれ「貧困をなくそう（ゴール1）」、「質の高い教育（ゴール4）」、「気候変動に具体的な対策を（ゴール13）」、「平和と公正をすべての人に（ゴール16）」に対するアクションプランを策定していきました。

### 学習成果指標

1. SDGsの基本的な知識・実践方法を習得すること
2. 英語力や多様な文化・考えへの理解など国際社会で求められるスキルの習得すること
3. ユニタールのスタッフとのコミュニケーションや香港の青少年大使との交流会を通して世界的な視野を習得すること
4. SDGsの達成を促進している日本の、もしくは世界的な専門家とのネットワークを形成すること
5. 広島県のような市や地域から参加しているほかの青少年大使とのネットワークを形成すること



### 第3日目の様子

### プログラムの構成や手法

2か月間のプログラムの中で、研修生たちはオンデマンドのEラーニングコースと、SDGsに関する活動を実施している企業や団体、専門家の講義やワークショップ、グループワーク、国際交流、最終プレゼンテーションで構成された、2回の対面研修と1回のオンライン研修を組み合わせた研修を受けました。研修生たちは、9つのグループに分かれ、街歩き・マップ作り・理想の街プラン作成をグループで実施し、最終プレゼンテーションで発表しました。

#### 1. オンデマンドのEラーニングコース

マイクロラーニングプラットフォームであるEdAppを用い、研修生たちは、SDGsの概要や、各SDGに対する基本知識を身に付けていきました。

それぞれのコースはクイズや正誤問題、といったエクササイズを含んだ、1レッスン15分程度の簡易なものとなっていました。

それぞれのコースは以下の通りです。:

- SDGsの概要
- 国連に関連する英語表現
- ゴール1～17の各概要と事例紹介

#### 2. 研修（全3回）

全3回の研修では、以下のようなコースが実施されました。

- ▶ 専門家による身近なSDGsに係るワークショップ
  - ・SDGsのメガネで日常生活を見てみよう  
慶応義塾大学特任助教 高木超氏（Cosmo Lab）
- ▶ 行政・国連・民間企業による講義
  - ・広島県のSDGsに向けた取組  
広島県 平和推進プロジェクトチーム 安田真司氏
  - ・良品計画が目指す未来について  
株式会社良品計画 高弘 綾子氏
  - ・Introduction to SDG Goal #11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES  
ユニタール広島事務所 シニアアドバイザー ナスリーン・アジミ氏
- ▶ 東南アジアの学生との交流会
- ▶ グループワーク（街歩き・マップ作成、理想の街プラン作成）
- ▶ 最終プレゼンテーション

#### 3. グループワーク

- 研修生たちは、ジェンダーや学校、学年、関心のあるSDGsのゴール等に応じて9つのグループに分けられ、理想の街プランをグループで作成し、最終プレゼンテーションで発表しました。
- グループワークの中では、自分たちが街づくりで見つけた街の良い点・課題をSDGsのゴールおよびターゲットと結び付けました。また、そこから選択したテーマに沿って理想の街プランと、それに関連するSDGのゴールおよびターゲット、及び自分たちにできることを考えました。
- 最終プレゼンテーションでは、それぞれのグループが考える理想の街と自分たちにできることを発表し、各講評者からグループごとフィードバックを受けました。

### 研修に携わった専門家・SDGsの実践者

本研修では青少年大使たちが、SDGsへの取り組みをより身近に感じ、自らが実践者となるため、ロールモデルとなる取り組みを実施している企業や行政、国連機関からの講師を招聘しました。

- 株式会社良品計画 高弘 綾子 氏
- 広島県平和推進プロジェクトチーム 安田 真司 氏
- ユニタール広島事務所 シニア・アドバイザー ナスリーン・アジミ氏
- 慶応義塾大学特任助教 高木超氏 (Cosmo Lab)

### 持続可能な開発目標との関連性

#### ゴール4：質の高い教育をみんなに



ターゲット4.7: 2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする。

#### ゴール11：住み続けられる街づくりを



ターゲット11.6: 2030年までに、大気質及び一般並びにその他の廃棄物の管理に特別な注意を払うことによるものを含め、都市の一人当たりの環境上の悪影響を軽減する。

ターゲット11.7: 2030年までに、女性・子ども、高齢者および障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する。

#### ゴール17：パートナーシップで目標を達成しよう



ターゲット17.16: 持続可能な開発のためのグローバル・パートナーシップのマルチステークホルダー・パートナーシップによる補完を促進し、それによるナレッジ、専門知識、技術、および資金源の動員・共有を通じて、すべての国々、特に開発途上国の持続可能な開発目標の達成を支援する。

ターゲット17.17: さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした、効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。

### 結果

プログラムの結果は、プログラム終了後に研修生によって提出された研修後アンケートによって測定されました。参加者48名中、40名からの返答がありました（約83%）。調査ではEdAppや講義、ワークショップ、グループワークについて確認しました。

### 事前学習の参考度

事前学習 (EdApp) について、39名が回答し、74%以上が「とても難しかった」「やや難しかった」と回答しました。参加者のコメントとして、「SDGsについて正しいターゲットを学ぶだけでなく企業の取り組みなど知れてSDGsを多角的に詳しく知れました」、「項目が多くて終わらせるのがとても大変だった」などがありました。

ANSWER CHOICES	RESPONSES
▼ とても難しかった	10.26% 4
▼ やや難しかった	64.10% 25
▼ ちょうどよかった	20.51% 8
▼ やや簡単だった	2.56% 1
▼ 簡単だった	2.56% 1
<b>TOTAL</b>	<b>39</b>

### 研修中の講義の参考度

39名が回答し、すべてのコースについて、70%以上が、「大変参考になった」「まあまあ参考になった」と回答しました。参加者からは、「今まで気にしてこなかったこともとてもsdgsに関係があることを知れて勉強になりました」、「普段は話を聞くことのない方々の話がたくさん聞けて嬉しかった」などのコメントが寄せられました。

	大変参考になった	まあまあ参考になった	あまり参考にならなかった	全く参考にならなかった	不参加	TOTAL
▼ 身近なSDGsについて (高木超先生、7月31日実施)	76.92% 30	20.51% 8	2.56% 1	0.00% 0	0.00% 0	39
▼ 広島県とSDGsの関わりについて (安田真司先生、7月31日実施)	65.79% 25	31.58% 12	2.63% 1	0.00% 0	0.00% 0	38
▼ 世界から見た広島の特徴 (ナスリーン・アジミ先生、8月7日実施)	61.54% 24	10.26% 4	12.82% 5	0.00% 0	15.38% 6	39
▼ ビジネスとサステナビリティについて (高弘綾子先生、8月7日実施)	71.79% 28	10.26% 4	2.56% 1	0.00% 0	15.38% 6	39

### 東南アジアの生徒たちとの交流について

39名が回答し、お互いのSDGsに対する意見を話すことができたという回答する参加者がいる一方、うまく英語でコミュニケーションができなかったというコメントも多く寄せられました。「英語は得意な方だと思っていましたが、いざ、本当にコミュニケーションツールとして使うとなると、思うように言葉が出てこなくてとても難しかったです。しかし、それを知るためのとても良い機会となりました」というようなコメントも寄せられました。

ANSWER CHOICES	RESPONSES
▼ 言いたいことを伝えられた。	25.64% 10
▼ 言いたいことを伝えられなかった。	38.46% 15
▼ SDGsについて活発に意見交換できた。	10.26% 4
▼ SDGsについて思うように話せなかった。	46.15% 18
▼ 視野を広げる機会になった。	46.15% 18
▼ 楽しい時間を過ごすことができた。	38.46% 15
▼ 参加できなかった。	20.51% 8
<b>Total Respondents: 39</b>	

### グループワークについて

35-39名が回答し、特にプレゼンテーションの準備について「常に難しいと感じた」「まあまあ難しいと感じた」参加者が58%いました。グループメンバーとの関係性については、人によって意見が異なるようでした。「自分にはない発想を他の人は持っていて、いろいろな意見をいろいろな人から聞くのが楽しかった。最初はみんな緊張していて意見が出にくかった」「グループに積極的に指示を取れるような人がいなかったの、話し合いが進まないことがあり、難しかった」とのコメントがありました。

	常に難しいと感じた	まあまあ難しいと感じた	そんなに難しく感じなかった	とても簡単だった	TOTAL
▼ 街歩きについて	0.00% 0	17.95% 7	61.54% 24	20.51% 8	39
▼ グループのメンバーとの関係性について	2.56% 1	7.69% 3	46.15% 18	43.59% 17	39
▼ オンラインでのメンバーとのミーティングについて	5.71% 2	34.29% 12	40.00% 14	20.00% 7	35
▼ プレゼンテーションの準備について	5.13% 2	53.85% 21	35.90% 14	5.13% 2	39

### チームで問題を解決する力

38-39人が回答し、ワークショップ前には36%が「高い」「ある程度高い」と回答していたのに対し、ワークショップ後には91%が「高い」「ある程度高い」と回答していました。

	高い (ワークショップ後：高くなった)	ある程度高い (ワークショップ後：ある程度高くなった)	平均的 (ワークショップ後：変わらない)	そんなに高くない (ワークショップ後：少し低くなった)	低い (ワークショップ後：低くなった)	TOTAL
▼ ワークショップ前	18.42% 7	18.42% 7	50.00% 19	13.16% 5	0.00% 0	38
▼ ワークショップ後	43.59% 17	48.72% 19	7.69% 3	0.00% 0	0.00% 0	39

### 自分の考えを発信する力

38-39人が回答し、ワークショップ前には47%が、と回答していたのに対し、ワークショップ後には87%が「高い」「ある程度高い」と回答していました。

	高い (ワークショップ後：高くなった)	ある程度高い (ワークショップ後：ある程度高くなった)	平均的 (ワークショップ後：変わらない)	そんなに高くない (ワークショップ後：少し低くなった)	低い (ワークショップ後：低くなった)	TOTAL
▼ ワークショップ前	13.16% 5	34.21% 13	31.58% 12	15.79% 6	5.26% 2	38
▼ ワークショップ後	35.90% 14	51.28% 20	7.69% 3	5.13% 2	0.00% 0	39

### プログラム内容を今後活用するかどうか

39名が回答し100%の参加者が「とてもそう思う」「そう思う」と回答しました。「ほかの高校生の意欲的な姿や理解力の高さに刺激を受けました」「さまざまなゴールに向けて自分達に出来ることやさまざまな取り組みが実施されていることを知ることができました。周りの人に伝えるだけでも思いなどを変えることが出来ると思うので、積極的に伝えていきたいと思いました」などのコメントが寄せられました。

ANSWER CHOICES	RESPONSES	
▼ とてもそう思う	82.05%	32
▼ そう思う	17.95%	7
▼ どちらともいえない	0.00%	0
▼ 思わない	0.00%	0
▼ まったく思わない	0.00%	0
<b>TOTAL</b>		<b>39</b>

### 考察

2020年の新型コロナウイルス感染症の蔓延により、本プログラムはオンラインで実施されてきましたが、今年度は2019年度以来初めて、対面でのワークショップを行いました。今後の事業に向けた反省と課題は以下の通りです。

#### 良かった点

- **包括的な学びの機会の提供**
  - 事前学習（EdApp）でSDGsについて学べたことで、その後の学習の基礎になったようです。
  - 研修中色々な人と出会い、様々な意見を聞いたことに対して、本研修の利点だと感じる生徒が多くいました。
  - 講義についても、普段の学校で聞くことがない企業や行政の視点を知ることができて、学びになったという参加者が多くいました。
- **グループワーク**
  - 赤の他人だった人と一つのアクションプランを作り上げることに達成感を感じたという声がありました。
  - グループワークを通して、メンバー同士での交流が深まったとの声がありました。また、本プログラム終了後も、お互いに関わっていきたいという声が多くありました。

#### 課題

- **英語でのオンライン海外交流**
  - 多くの生徒が、英語でコミュニケーションを取ることに困難さを訴えており、より細かな運営側のガイディングが必要であると考えられます。
  - インターネットやマイク等の機材環境の不調により、会話が滞る場面が多くありました。より入念な機材のチェック、テストが必要と思われます。

## コアバリュー（内部資料、外部の時は外してください。）

コアバリュー	追加説明	回答
<b>1)変化をもたらす人の創出</b>		
研修した人の数		48
トレーニングの強度	研修時間	34時間(事前学習14, 対面16, オンライン4)
<b>2)連携構築へのエンゲージメント</b>		
ジェンダー		女性 38人 男性 9人 その他 1人
国の発展ステージ		全員先進国(日本)出身
都市 VS 田舎	首都からと地方からの割合	100% 地方
<b>3) パートナシップづくり</b>		
パートナーシップの数		3
パートナーシップの質	グローバル、国、地域	グローバル企業1、全国企業1、地域企業1
	中身をよくするためのものか？ファイナンシャルか？	中身のため
<b>4) Boost relevance</b>		
研修生からのフィードバック	研修生からの声を含む	レポート内で言及
<b>5) コンテキストの充実</b>		
コーチ・メンターの数	関わったコーチ・メンターの数	14
<b>6) ジェンダー</b>		
女性研修生の数・割合		38 (86%) 女性
ジェンダーにまつわるコースを修了した人の数		ジェンダーコースを提供しなかった。
ジェンダーマーキング	以下の説明文を元にレーティングする。.	1



	<p>ジェンダーマーカー</p> <p>0 - ジェンダーの平等と女性のエンパワーメント（GEEW）に顕著な貢献が期待されないアウトプット／プロジェクト</p> <p>1 - ジェンダー平等に何らかの形で貢献するものの、顕著な貢献は期待できないアウトプット／プロジェクト</p> <p>2 - 重要な目標としてジェンダー平等を掲げているアウトプット／プロジェクト</p> <p>3 - 主要な目的として、男女共同参画を掲げているアウトプット／プロジェクト</p>	
<b>7) イノベーションの養成</b>		
提供形態の多様性	どのようなイノベティブな形態が導入されたかを短く説明する。	—
イノベティブな大人の学習手法との適応	どのようなイノベティブなアダルト・ラーニング手法が導入されたか	携帯でのマイクロラーニングEdAppの活用
<b>8) チャンピオン・オーナーシップ</b>		
アクションプランの質		SDGsを実現するための街づくりプランをグループで作成し、公開の最終プレゼンテーションで発表
<b>9) SDGsの活気づけ</b>		
SDGsのコースを修了した研修生数		全員
<b>10) 財務的な持続可能性の担保</b>		
ファンドの大きさ		少額